

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和2年4月5日

事業所名 子どものリハビリテーションセンター

		チェック項目	はい	どちらでもない	いいえ	改善目標、工夫点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			子どもの1人あたり3㎡以上の床面積を確保、静養や個別療育のためのスペースを設けています。
	2	職員の配置数は適切である	○			理学療法士、作業療法士、言語療法士などのセラピスト、児童指導員、保育士、障害福祉サービス経験者を常時4名以上配置しています。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮に適切になされているか	○			入口前のスロープ、車いす用のトイレ、段差のないフラットなスペース等、身体障害児の利用にも対応できる設備を完備しています。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			定期的な個別支援会議に加えて各職員が必要時に話し合いを行うことで、業務改善に努めています。
	5	アンケート調査を実施して保護者の意見などを把握し、業務改善につなげているか	○			定期的にアンケート調査を実施、また送迎時や電話にて保護者との情報交換を行い、職員間で共有しています。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページなどで公表しているか	○			ホームページ上にて毎年度末に公表していきます。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		利用児童、ご家族や外部連携機関の方の意見を業務改善につなげていますが、今後より一層の外部評価を取り入れていきたいと考えています。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			各職員が積極的に研修会に参加しています。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○			保護者アンケートからの情報をもとに、会議にて個別・集団における課題を分析したうえで計画作成を行っています。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			常に療育の中での観察を通じて評価を行い、課題に沿った訓練の立案・提供を行っています。また、児童の成長過程や課題を日々の連絡帳に記載しています。
	11	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインに示す支援内容から、子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○			ガイドライン内容を周知し、その都度内容を確認した上で支援内容を設定しています。
	12	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			職員間で話し合いをしながら集団プログラムの立案を行っています。
	13	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			月の予定表を作成したうえで、様々なプログラムの提供が行えるよう職員間で意見交換・修正しています。
	14	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細かに設定して支援している	○			状況に応じて、プログラムの設定をしています。休日、長期休暇中は児童主体によるイベントの開催や、映画祭などを設定しています。
	15	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○			計画立案から個別・集団療育の整合性をもたせつつ、日々の子どもの様子に合わせて活動提供の方法を調整しています。

		チェック項目	はい	どちらでもない	いいえ	改善目標、工夫点など
	16	個別支援計画に沿った支援が行われているか	○			計画内容は各職員に周知を図ったうえで、個別・集団療育の整合性を持たせて支援を行っています。
	17	支援開始前、終了後には、職員間で必ず打合せをし、支援内容の確認、振り返りを行い、気付いた点等を局員感で共有している	○			支援開始前、終了後に、児童の近況を情報共有し、支援内容の確認・反省を行っています。
	18	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			6ヶ月に1度のモニタリング、個別支援計画作成のほか、必要に応じて個別支援会議を実施し、支援の見直しを行っています。
	19	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○			6か月に1度のモニタリングと計画見直し、必要に応じて会議を実施して支援の見直しを行っています。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			児童発達支援管理責任者や、子どもの状況をよく把握している職員が参画しています。
	21	保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、移行に向けた支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○			入園決定時に情報共有の機会を作り、子供の様子や、各支援内容の確認・情報共有を行っています。
	22	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○			自事業所の放課後デイのスタッフに情報提供を行ったうえで、必要に応じて関係者会議を行っています。
	23	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			関係者会議等において必要に応じた他事業所との連携、見学の受け入れ等を行っています。
	24	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		○		積極的な参加は行えていないため、今後の参加を検討していきます。
	25	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			連絡帳や、送迎時の直接的なコミュニケーションを通じて、情報共有を行っています。
	26	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○			保護者からの相談・希望に応じて療育の見学等を行い、その中で必要なアドバイスを行っています。
27	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			契約時や保護者からの質問があった際は丁寧な説明を心がけており、その都度ご理解をいただいています。	

		チェック項目	はい	どちらでもない	いいえ	改善目標、工夫点など
保護者への説明責任等	28	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			相談があった際は必要な助言や支援を行っています。
	29	保護者会の開催等、保護者同士の連携を支援している		○		保護者会の企画はあるものの、まだ開催には至っていないため検討していきます。
	30	子供や保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子供や保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			苦情担当者を配置し、その都度対応を行っています。
	31	定期的にホームページ等の更新を行い、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			法人ホームページを定期的に更新し、活動概要などの発信を行っています。
	32	個人情報の取扱いに十分注意している	○			施錠できるロッカーにて厳重に管理しています。
	33	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			それぞれのお子様の特性に配慮し、情報伝達を行っています。
	34	地域に開かれた事業所運営を行っている			○	月1回の研修会を開催と、地域講演会へも講師として参加を検討しています。
非常時等の対応	35	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○			各マニュアルを作成していますが、今後は保護者への周知を行っています。
	36	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている		○		定期的に避難経路の確認、救出の際の方法を確認していますが、実施時期や概要等が保護者にも伝わるように検討していきます。
	37	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○		医師との連携の機会は限られていますが、保護者からの聞き取り内容を全職員に周知し、個別に対応を行っています。
	38	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			事例報告書をファイリングして、いつでも閲覧できるようにしています。
	39	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			各研修会に参加後、伝達講習を行い全職員への周知に努めています。
	40	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○			不穏傾向のお子様に関しては、事前に拘束の状況などを予測した上で、保護者様に了承を得て、計画書にその内容を記載しています。